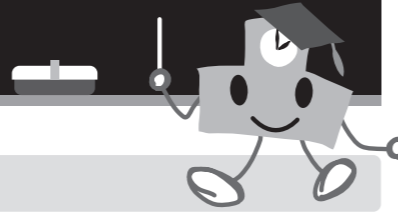


小学校の事例 手稲区 西宮の沢小学校

地域と連携した活動の中で、環境について指導。

川の観察、資源回収、ごみ減量などの活動から家庭や学校を囲む地域に目を向ける。小さな気付きや疑問をもち、そこから広がる地球環境への視線を育む取組。



はじめに 学校地域連携事業として活動

総合的な学習の時間の中で地域を知るために活動する時間を「西宮タイム」と名付け、その活動の1つとして清掃活動を行っていた。平成21年に、札幌市の「学校地域連携事業」に応募し選ばれたことから、さらに地域との連携を深める活動に取り組んでいる。活動は5年間契約で、この事業に参加することにより、地元音楽家と連携した音楽の授業を行うなど、地域の人材を活用しながら事業に取り組んでいる。



清掃活動

内容 地域を知り 交流しつつ学ぶ

本校では「子どもを育てる」「住民は地域をよくする」といった目標を融合させる形で、連携しながら以下のような環境活動に取り組んでいる。

3年生 総合的な学習の時間

・川を調べることで生き物についても興味をもち、そこから環境を生かすためにはどうするかを考えていく。健全育成委員会の方や地域の「見守り隊」の方たちと一緒に、防犯を含めた地域のマップを作り、安全なまちづくりを考えていく。

→ 地域のことについて調べ、まとめてその結果を発表。地域の方も積極的に協力してくれるので、楽しく活動ができる。

たて割り清掃活動

・公園をきれいにしながら地域の方と交流する。
→ 子供たちと「見守り隊」の方々が顔見知りになれるよい機会となっている。

ごみ減量対策

・ごみ箱を小さくし、ごみの分別を行っている。
→ 画用紙を使うとき、無駄使いを無くし、ごみを減らすよう、半端な切れはしや裏側も使うことを意識するようになった。



ごみの分別

資源物回収

・PTAの協力で紙類は再利用。その他ビン・カン・ペットボトル等は月末第4水曜日に回収。
→ 収益金は備品や教材の購入など子供たちのために活用している。

環境委員会(5・6年生)

・美化することも含め、中の川や校区内の清掃活動を行う。
・子供たちが「川を大切にしよう」という趣旨でポスターを作成。土木センターに用意してもらった看板に掲示するなど、地域にアピールする活動を行った。
この他にも、車いすと交換するためのリングブル収集活動や牛乳パックのリサイクル活動、花いっぱい運動(花植え活動)へ参加もしている。



牛乳パックの回収

今後 地域と積極的に交流・連携

地域と密接に関わる様々な活動をとおして、放課後に自分たちが遊ぶ場所や住んでいる地域のことを再認識し、環境を守り維持することへの理解ができることを期待している。

子供たちに疑問をもたせることで「気付き」を促し、自発的に「地球」というテーマに取り組むよう発展させることが理想と考えている。

本校は以前から、6つの周辺町内会をはじめ地域との協力意識がとても強い。今回「地域連携事業」を活用したことにより、地域との交流を軸とした活動が増え、子供たちが地域に関心を向ける機会が多くなった。川での観察、資源回収、ごみ減量などの活動を通じ、家庭や学校を囲む地域、そこから広がる地球環境への視線が、確実に育ってきている。

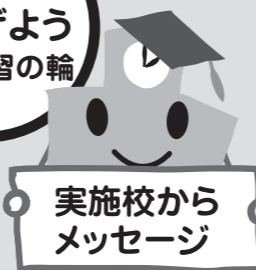
また、本校では、修学旅行時に、白老町・ポロト湖で

カヌー体験を行った。川面から見る自然の姿は子供たちにとって新鮮な刺激であり、このような自然体験が「環境」を考えるきっかけになるということを実感している。校内では、地域に住む魚の展示など、身近なところで自然や生物・植物に触れる機会を増やしていきたいと考えている。



カヌー体験

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

地域との連携により、子供たちと大人の顔合わせができるのは、この地域で生活していくうえでの安心・安全にもつながります。特に今回の事業では、地域の方に学校へ足を運んでもらうことが多く、行事のときだけでなく、年間を通して地域とコンタクトを取ることで、交流・助け合いが深まっていることを実感しています。

さらに、市の事業に参加するのもよいと思います。

たとえば、「花いっぱい運動」に一度参加し、土に花を植えただけでは、子供たちが意欲をもち続けることはなかなか難しいことです。美しく、元気な状態を維持することの大変さを子供たちが実際に体験し、命を育むことへの意識改革や「なぜしなければいけないのか」を理解させられるような工夫が必要です。それは、地域の方にとっても、同じことがいえます。学校とともに活動して「やってよかった!」と感じてもらえるような、また、「しあわせ感」をもってもらえるような活動を目指したいと思っています。そのためには、協力してくださる地域の方の負担が少なくなるようなプログラムの組み方を考えていくことが必要です。

人は他者との心の交流があってこそ、自分の行動や活動に満足感や存在価値が得られるものです。この気持ちを大切にしながら活動を続けていきたいです。